

大学生を対象とした言語訓練における機能転移の実験
ー マンドからタクト、私的出来事のタクトへ ー

立命館大学大学院
応用人間科学研究科
対人援助学領域
障害・行動分析クラスター
永井 千晴

本研究は、言語訓練におけるマンドからタクトへの機能転移の有無と、私的出来事のタクトへの派生の有無について検討することを目的とし、大学生を対象に無意味つづりを用いて実験を行った。実験を通して、マンドからタクトへの機能転移という視点から私的出来事のタクトを訓練することができるか検討した。

実験では、ゲームを用いて「ワクワク」と「困った」という感情（私的出来事）を実験的に喚起し、その中で無意味つづりを選択反応がマンドの機能を有するように訓練した。その後、訓練によって、タクトの機能としても無意味つづりの選択反応が生じるかテストした。さらに、実験的に喚起されたであろう私的出来事を、無意味つづりの選択反応によってタクトするかテストした。

その結果、マンドからタクトへ機能転移が生じる可能性が示唆され、それが生じるにはいくつかの条件が必要であると考えられた。また、訓練した私的出来事がタクトとしても生じる可能性が示唆された。

しかし、今回の研究を通していくつかの課題が示された。本実験の妥当性を高めるために、また言語訓練の中で本研究結果を活かすために、今後の研究においてそれらの課題を克服し、さらに実験を重ねる必要があるだろう。